

平成31年度 美術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	「美術 1」 (光村図書)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・感じとったことや、経験した (見た) ことなどから考える「絵画・彫刻」、機能や目的を考える「デザイン」、工夫して視覚的に伝達することを考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
- ・表現形式の特性や、色彩・形体に着目し、自分なりの感じ方、見方、表現を深められるよう学習していきます。

2 学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	a:美術への関心・意 欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	ワークシート 授業態度 制作の様子 作品	アイデясケッチ ワークシート 制作の様子 制作途中の作品 作品	制作の様子 (道具の扱い方) 制作途中の作品	発表態度 鑑賞態度 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	オリエンテーション	【鑑賞】【絵画・彫刻】 ・自己紹介 ・教科書を鑑賞し、多様な表現形式を学び「美術Ⅰ」の学習イメージを持つ。 ・空き缶デッサン 色鉛筆で着色する。	○			○	a: 美術の多様な表現に興味を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 b: 対象を見つめ、形体や色彩の特徴を掴み、構成などを工夫している。 c: 技法を理解し、形体、色彩などを工夫して表現している。 d: 美術作品のよさや美しさを感じとり、美術の働きや文化についての理解を深めている。	ワークシート 発表の様子 制作の様子 作品
	自分だけのデザイン	【デザイン】(色彩表現) ・10種類の線を自分で考え、それを組み合わせて模様を作る。 ・ビビット・ペールトーン・ダーク・グレイッシュの色味を自分で作り、色の対比を考えて模様に着色する。	○	○		○	a: 線を組み合わせて模様を作ることに関心を持ち、模様の構想を練ったり、色の組み合わせを考えて丁寧に着色しようとする。 b: 条件の中で、形や色の組み合わせを考えて構想を練り、表現する。 c: 組み合わせた線、模様の輪郭線からはみ出さず、アクリル絵の具で着色している。 ビビット、ペールトーン、ダーク、グレイッシュの色味を理解し、色彩を表現できる。	ワークシート 制作の様子 制作の様子 作品

2学期	スタンプ版画で作る手ぬぐい	【絵画・彫刻】 ・版画の種類と印刷方法について学ぶ。 ・スタンプのアイデアスケッチ。 ・ゴム版にデザインを描き、彫刻刀で彫る。 ・彫り終えた版をスタンプにして手ぬぐいを制作する。 ・教室に手ぬぐいを飾り鑑賞する。	○	○	○	○	a: 凸版版画で表現することに興味を持ち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。 b: 条件や美しさなどから形や表現の構想を練っている。手ぬぐいのデザインを工夫している。 c: 凸版・凹版・孔版の版画の種類と違いを理解している。凸版版画の特性を生かし、表現方法を工夫している。彫刻刀の特性を理解し、版の表現を工夫している。 d: 作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、作品について理解を深めている。	アイデアスケッチ 授業の様子 制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート
	発見！“新種の貝の化石”	【絵画・彫刻】 ・課題に関するイメージ画像の鑑賞をする。 ・石こうの特徴・扱い方の説明を聞く。 ・粘土で化石の型を作り、石こうを流し込んで型取りする。 ・型からはずしたら、石こうボードに作った化石を貼り付ける。 ・完成した作品をクラスの前で発表し、制作の意図を伝える。	○	○	○	○	a: 粘土で型を作ること、石こうで型をとることに関心を持ち、模様や形の構想を練ったり、石こうの硬さを調整したりと主体的に創造活動に取り組もうとする。 b: 削り方、模様の付け方を工夫して粘土型を作る。石こうの配置や模様の構想を練り、表現する。 c: 石こうの硬さを水で調整して、粘土型に流し込んでいく。石こうの硬化を確認し、型から石こうをはずしている。 d: 石こうの特性、型どりの方法を理解し、制作に生かすことができる。クラスの前で制作の意図を発表できる。	授業態度 制作の様子 制作途中の作品 発表の様子 作品 ワークシート

	光と影を捉えるデッサン	【絵画・彫刻】 ・グレースケールを描き、鉛筆のみで濃淡を表現できるよう学習する。 ・立体の描き方、影の付け方を練習する。 ・光の陰影、立体の形に気をつけながら、立体図形の石こうをデッサンする。	○		○		○	a:鉛筆のみで形態・立体感・陰影を表すことに興味を持ち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。 b:立体の配置・遠近感など表現の構想を練って画用紙に表現する。 c:鉛筆の濃淡を意識して、立体を表現しようと工夫している。	アイデアスケッチ 制作の様子 作品 鑑賞の様子
3学期	浮き彫りを生かして	【絵画・彫刻】【デザイン】 ・木彫のトレイを制作します。 ・ワークシートにトレイのアイデアスケッチをし、スケッチの形をデフォルメしてトレイのデザインを行う。 ・デザインをトレイに転写する。 ・浮き彫りの技法を理解する。 ・彫刻刀で必要な部分を削る。 ・必要に応じて彫刻刀を持ち替え、工夫して制作する。 ・彫り終えたらやすりで磨く。 ・磨き終えたら絵の具で着色する。 ・ニスを塗って仕上げる。 ・彫り終えたらワークシートを記入。	○	○			○	a:用途を考えてトレイのデザインをすること、木彫の浮き彫りを生かして形を表現することに興味を持ち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。 b:用途、美しさなどから主題を生成し、形やバランスを考えたトレイの構想を練っている。また、構想をもとに表現する。 c:目的に応じて彫刻刀を使い分け、意図に応じて表現を工夫している。 d:浮き彫りの技法を理解し、制作に生かす。	ワークシート 授業態度 授業態度 制作中の作品 道具の扱い方 作品

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。